

千葉県社会福祉士会印西エリア地区集会 西いんば地区ソーシャルワーカー研究会 開催のお知らせ

第1部

テーマ：「触法高齢者・障害者の支援を知る～千葉県地域定着支援センターの取り組みと実践報告～」

講師：千葉県地域定着支援センター センター長 岸恵子様

第2部

テーマ：「施設見学～複合型福祉施設 フラットビレッジ～」

他分野で活動しているソーシャルワーカー同士の「横のつながり」や「情報共有の場」となれば・・・と思っております。

お子様連れはもちろん、資格種別を問わず、本会に興味のある方、大歓迎。是非に、職場の同僚、ご学友にもお声掛けください。

『西いんば地区ソーシャルワーク研究会』ですが、昨年度から千葉県社会福祉士会の印西エリア地区集会に認められました。対象地域は、白井・印西・栄・酒々井・成田・富里です。

日時：平成30年7月22日(日)

9時30分～11時30分(9時～受付)

場所：複合型福祉施設 フラットビレッジ

(千葉県白井市根 460-1 白井駅北口より徒歩 10分)

464号線の千葉ニュータウン方面から白井駅を超えて

800m先のガソリンスタンドを右折し、

ミニストップのある信号を越えてすぐ左側です)

参加費(資料代)：500円

定員：30名

その他：会の終了後、フラットビレッジカフェにて懇親会を予定しています。

申し込み方法

下記の連絡先まで、お電話またはメールにてお願いいたします。↓↓↓

申し込み先・お問い合わせ先

世話人：市川澄子(千葉県社会福祉士会 ぱあとなあ千葉会員)090-8855-4880

nssy-ichikawa@mrd.biglobe.ne.jp

世話人：薄井哲子(千葉県社会福祉士会 ぱあとなあ千葉会員)090-2300-4851

世話人：赤堀久里子(千葉県社会福祉士会員・千葉県精神保健福祉士会員)

soramanatai@icloud.com



ケア必要な子 支えるカフェ

預かる施設併設 障害者も働く

難病などで人工呼吸器などが必要な子どもを預かる施設を併設するカフェ「フラットヴィレッジ」が白井市にオープンした。障害のある人も働き、すいているときは保育士や看護師の店員が育児相談などにのってくれる。運営する社会福祉法人フラットの林晃弘理事長(36)は「障害のあるなしに関わらず、多くの人が交流して憩う場になりたい」と話している。

日常的に酸素吸入やたん 施設は全国的に不足しておの吸引などを必要とする り、市内にはなかった。林「医療的ケア児」を預かる さんは「おしゃれなカフ



明るくおしゃれな「フラットヴィレッジ」の店内

白井にオープン

エ」や「障害者の働く場所」も地域に必要と、障害者支援などを行っている日本財団から資金援助を受けて建設し、4月から営業を始めた。

2階にある施設の定員は10人。現在は、2歳以上で就学前の医療的ケア児7人を午前9時午後5時に受け入れている。理学療法



①アメリカ西海岸風の外観が特徴的な「フラットヴィレッジ」
②保育士と打ち合わせをする林晃弘さん(左端) ③いずれも白井市



士、看護師、精神保健福祉士が各1人と保育士4人がいて、健康チェックや体操、公文式学習、音楽などの活動をしている。

ダウン症で鼻水の吸引などが必要な2歳児を週に4日ほど預ける母親は、「専門職の人が見てくれるので安心して仕事に出かけられる」と喜んでいっている。

1〜2階のカフェは外観がアメリカ西海岸風のおしゃれな造りで、オムライス、ハンバーグ、カレーな

どの洋食やコーヒーのほか、デザートも楽しめる。店員45人のうち、精神障害や知的障害のある人は8人。このうち2人は通常の雇用契約を結んでおり、時給は870円。残り6人は、他の店員と同じように働けるよう就労訓練を受けている。店員の中には看護師6人と保育士6人がおり、林理事長は「混んでいないときには、コーヒーを飲みながら育児や健康の相談をして欲しい」と話す。

多様な人に入寄りしてもらおうと、カフェには親子らが寝転がれるマット敷きのスペースや、学生や社会人が無料で使える学習スペースを設けた。親子サロンや親子英語教室などを開けるレンタルスペースもある。

林理事長は「もっと多くの障害のある人がここで働いて自立して欲しいが、まずは多くのお客さんに満足してもらえるカフェにしたい」と意気込んでいる。

問い合わせは、フラットヴィレッジ(047・401・3333)へ。